



伊藤論

大隈 井上 淡澤 三云閣下

3736



414  
A1435



兵備審判民政理財ノ要務ハ皆政府ノ職掌タルヲ以  
 完全セサレハ政府ノ職掌ヲ盡セリト云ベカラ  
 ス其理ヲ論スレハ固ヨリ彼此ノ際ニ輕重ヲ置ヘキナ  
 シ其實ヲ視レハ後先ノ處分ニ當リ自カラ緩急ナキヲ  
 得ス大凡實際ニ於テ事務ヲ施行スルヲ徵スルニ  
 其時勢ノ機會トニ應シテ處分スルニ非レハ其施行  
 スル所掣肘矛盾ノ弊ナキヲ免レス方今我國政務ノ實  
 際ニ於テ事務ノ窳モ舉リ難ク事利ノ最モ興ニ難キハ

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

大正官

會計理財ヨリ甚シキハナク又時機ニ急迫シ一日モ  
之ヲ措ク可ラサルハ會計理財ヨリ急ナルハナシ請フ緩  
急ノ形状ヲ畧記セン

夫レ國君獨裁ノ政体千百年來朝野ノ人心ニ固結シ  
習フ所自カラ性トナリ專制擅御ノ政務ノ及ホス所関  
化ノ人理ヨリ傍論スル時ハ其際或ハ弊害アルヘシト  
雖人民ハ之ニ慣習スルヲ以テ敢テ咨嗟ノ怨ヲ起サス  
敢テ憂苦ノ嘆ヲナサス今ヤ司法ノ如キハ人命ヲ保

護シ財産ヲ防庇スル大本ニシテ其審判苟シクモ其平  
ヲ失フ時ハ百萬ノ生靈ヲ塗炭ニ措カゴトシ而シテ我  
法律ヲ見ルニ未タ善美ヲ盡サス断訟ヲ見ルニ未タ適  
正ヲ得ス然レ人民ハ却テ旧習ニ安シ之ヲ苦シム色  
ナシ故ニ其患立トコロニ生セス立法ノ如キハ我政府  
維新更張ノ際ニアルヲ以テ其令スル所或ハ朝令暮  
更ノ弊アリト雖人民ハ却テ政府ヲ誹議シ之ニ抗ス  
ルノ色見シ故ニ其患モ亦立トコロニ生セス租税ノ如キ

ハ我政府農商ノ膏血ヲ以テ無用ノ華士族ヲ養フト  
雖人民敢テ政府ノ私ヲ論シ之ヲ非トスル者ナシ故  
ニ其患モ亦立トコロニ生セス果又海陸兵備ノ如キ決シ  
テ完備ノ端ニ至ラスト雖氏漸ク内國ノ不虞ヲ戒メ奸  
党ヲ威服スルニ足ヲ以テ一朝掲竿ノ患モ亦立トコロニ  
生セス此數者ハ患害ノ大ニシテ遠ニアリ重ニシテ緩  
ニアルモノナレハ政府今暫ク旧貫ニ仍リテ時機ヲ測リ  
漸ヲ以テ弊害ヲ除キ序ニ順テ民權ヲ擴メ知ラズ識

ラス之ヲ化域ニ導カハ所置スルトコロ皆其度ヲ得カノ  
掣肘ノ患矛盾ノ害ナキヲ得ヘシ  
患害不測ニ生シ之ヲ匡救スルノ方法ナク一日モ之ヲ忽カ  
ニス可ラサルハ會計理財ノ一事ニアリ而シテ此會計  
理財ノ事務中ニ於テ患害咫尺ニ迫リ急ニ救ハサル  
可カラサルハ即チ紙幣ニアリ其交換通用ノ間ニ一旦  
壅塞ノ患ヲ生スル時ハ政府ノ信ヲ失ヒ人心離叛ニ  
其禍ノ及フ所名状スヘカシサニ至ルニ必然ノ勢ナリ

夫レ治亂ハ預メ期ニ難シ禍災ハ未發ニ救フヲ要トス  
忽然國內ノ事アル歟或ハ外國ト争ラ生シ一朝太平  
ノ觀ヲ失フ時ニ臨マバ全國ノ人心忽チニ動キ各々一己  
ノ財産ヲ失ハシテ恐レ争テ真貨ヲ収斂シ紙幣ヲ忌  
嫌スル一明瞭ナリ此時ニ當リテヤ既ニ政府ノ信ヲ人  
民ニ失フヨリ其發行スル所ノ紙幣ハ僅ニ一小字紙々  
ルニ過キス是レ各國ノ理財法中尤モ此弊害ヲ慮リ此  
禍ヲ未發ニ防クノ法ヲ設クルヲ急務中ノ急トスル所

以ナリ

今ヤ國家無事ノ時ニアルヲ以テ國民ニテ虚行ノ紙幣々  
ルヲ悟ラス通用ノ際真貨ノ價ニ比較シ甚々輕重ナシト  
雖ヒ一時ノ僥倖ニ過サル而已決シテ明日ノ然ルヤ否  
ヤヲ保スヘカラス縱令太平ノ日久シト去ト虫ヒ此通價  
ヲ永遠ニ有スルヲ得ス何ヲ以テカ之ヲ知ルヤ外國貿  
易ノ模様ヲ以テ之ヲ知ル聊カ之ヲ其實ニ徴セン今我  
國ヨリ外國ニ輸出スル所ノ物價一千六百萬圓ニ過キ

大正  
官  
ズ而シテ輸入スル所ハ三千万圓ノ多ニ及フ入ル所  
出ル所ニ一倍ス此景況ヲ以テ三五年ヲ経ハ我真貨  
四五千萬ヲ外國ニ流出セサルヲ得ス真貨乏シク紙幣  
多シ乏シキハ貴ク多キハ賤シ紙幣ノ通價ヲ下落スル已  
ニ此間ニアリ加之輸入ノ物品ヲ見ルニ増生ノ質アリ  
テ後來ノ利源タルヘキモノハ稀ニシテ大抵ハ皆衣食日  
用ノ類ニシテ隨テ用ヒ隨テ消フルノ物品而已且ツ今  
日ノ勢ヲ見ルニ外邦ノ開化ヲ學ビ文明ニ習フヲ貴ヒ

氣運ノ向フ所皮粧面飾ヲ專トスルノ人民タルヨリ其  
外邦ニ仰ク所ノ物品愈多ク輸入スル所愈今日ニ倍  
獲ス假令盡カシテ我國內ノ物産ヲ繁殖ストモ決シ  
テ輸出ヲ以テ輸入ヲ補フニ足ラス況ヤ之ヲ繁殖セサルニ  
於テオヤ得失利害ノ著明ナル之ヲ掌上ニ執ルカ如ク  
勢ノ尤モ賭易キ者ナリ而シテ尚オ後容トシテ之ヲ防  
クノ方法ヲ設ケサルハ我カ所謂緩クシテ漸ク以テスヘキ  
ノ要務ヲ急ニシテ迫ルモノトシ之ニ執守シテ議ノ未ダ爰

ニ及ハサルカ將タ議已ニ爰ニ及ガモ之ヲ實踐スルノ方  
法ヲ得サル乎萬里ノ外ニ使シ其機ヲ測リ其蘊ヲ知ル  
ト能ハズト雖比今日ノ機ヲ失ヒ他日噬臍ノ患アラント  
恐ル是僕カ區々憂慮ヲ懷キ下條ノ考案ヲ具スル理ナ  
リ仰キ願クハ禍ヲ未發ニ防キ政府ノ信ヲ國民ニ失ハ  
サランコトヲ請フ深ク之ニ注意セヨ不勝倦々之至

士卒ノ家祿ヲ減シ其減高ヲ以テ元備トシ毎  
年此備金ヲ積ミ會社ヲシテ之ヲ運轉セシメテ  
其息ヲ收メ而シテ此息モ亦翌年ノ元備金ニ  
加ヘ之ヲ増積シテ紙幣ヲ消却スルノ元金トナ  
スノ方法概見

大藏省ノ議ニ據レハ士卒ノ家祿ヲ廢セン為ニ年限ヲ定メ  
テ祿券ヲ發行シ其年限中ハ利息ヲ拂ヒ一定ノ期限ニ及  
テ全ク其元金ヲ償却スルノ方法トス又年限中ハ其祿券ノ賣

買ヲ許シ英貨二百四十萬封度ヲ借リテ備金ナシ若シ此  
祿券ノ價下落ノ勢アル時ハ右ノ備金ヲ以テ之ヲ政府ニ買上ケ  
價ノ下落ヲ防キ士卒ヲシテ損失ノ患ナカラシメントノ策ナリ惟  
ミルニ士卒未ダ時勢ト共ニ遷移スル事ヲ得ス一旦其曰祿ヲ失  
フ時ハ直ニ農高ノ業ニ就キ活計ヲ営ナムコ能ハス假令其所有  
ノ祿券賣リテ財本トナシ農高ノ業ニ就クモ経略乏ラサルヲ以  
必ス原金ヲ失ヒ終ニ六糊口ノ術ニ窮シ溝壑ニ陥ルニ及フハ政  
府モ亦一時己ヲ得サルヨリ之ヲ救卹スルノ策ヲ設ケサルヲ得ス

然ル時ハ政府其ノ負フテ却テ人民ノ怨ヲ招ク恐クハ未シ毫  
厘ノ利益ヲ見スシテ夙ク咨嗟ノ目的トナシカ最モ豫慮ヲ加ヘ  
謹慎ヲ以テ徐々ニ進ムヘシ一時ニ芟除セヨク欲シテ  
ノ失措ニ至ル可ラス期限ヲ寛ニシ以テ萬全周密ノ大成ヲ謀ル  
ニ如ス。

萬全周密ノ策ハ暫ク祿券ヲ發行セサルニ如クハナシ方今先ツ  
現祿ノ三分一ヲ減ニテ可ナリ之ヲ減スルニ正音ハ維新ノ際兵馬  
ノ用費ノ大給ヲ仰クノ所ナキヨリ紙幣ヲ發行ニ支燭眉ノ急ヲ



ヒタリ夫レ紙幣ノ虚行ハ財利ヲ起スル本柱ニ非レ而巳ナラス  
且事変アル時ハ人民ミナ世則ノ禍ヲ蒙ル者ナレハ之ヲ消却シ  
テ其禍根ヲ今日ニ断サル可ラス此紙幣ハ政府ノ公債ナレハ其責  
任ハ政府ニアリ而シテ其害ヲ蒙ル者ハ人民ニアリ一日之ヲ存スレ  
人民モ亦一日ノ患ヲ免レス於此政府コノ責任ヲ重シ永遠ノ民福ニ  
注目シ一朝ノ苦ヲ忍ヒテ断然之ヲ消却スルノ法ヲ以テシト欲ス  
士卒タル者モ須ラク政府ノ意ヲ体認シ其現禄三分一ノ減シ  
此紙幣消却ノ用ニ充ツヘシ此教令一タヒ発セハ実行セサル

理ナシ

自余ノ三分二ハ尚オ奮ニヨリテ暫ラク之ヲ支給シ徐々時機ヲ  
計リテ之ヲ減殺スヘシ譬ハハ学校ノ建テ教育ハ血ニスルニ  
臨ミ費用足カル時ハ其禄ノ幾分ヲ出シテ学税トナサシメ  
開化ノ進ムニ從フテ人生坐食ス可ラサルノ理ヲ覺リ各自  
營生ノ業ニ従事シ遂ニハ衣食ニ給スルノ職ヲ得カノ一敷  
塗地ノ患ヲ免カルヘシコレ禄券ノ發行ノ止メ時機ニ應シテ  
之ヲ減殺スルノ法ヲ設クルヲ良トス處ナリ

前條家祿ノ一ヲ減スルノ標本ハ前述ノ目的ヲ期リテ三分ノ  
ト定メタルナリ今假ニ米價ノ平均毎石四圓ト見積ル時ハソノ  
價士卒ノ家祿三百万石トシ其三分ノ一ハ乃チ百万石ナレハ即チ  
四百萬圓トナル而シテ年々此四百萬圓ヲ積ミ之ヲ會社ニ下シ  
六分ノ利与ラ課シ此會社ノ創設方法ハ  
下條ニ詳説スヘシ今年ノ利与ラ以テ翌年  
ノ元金ニ増加シ十年ヲ終ル時ハ元金計五千六百八十八萬  
千五百七十圓五十三錢ノ多ニ至ル而シテ十年間ニ流通スル  
處ノ紙幣ハ五千六圓ト定メ買ケハ右ノ積ム所ノ金額ヲ以テ尽ク

紙幣ヲ消却スルニ至ルハシ

若シ右ノ十年間或ハ事變ニ遭ヒ紙幣ノ通價代ニ下落スル

コアラハ右ノ積金中ヨリ之ヲ買上ケ一寺ノ通價代ニ持セシム

可シ

會社ハ必ラス此積金ヲ六分ノ利ヲ以テ預リ今年ノ利ハ来年ノ

元金ニ増加シテ利ニ利ヲ課スルヲ政府ニ對シテ職務トナス可シ

六分ハ固ヨリ廉利好ニテ之ヲ預ナラシムルニ必然ナリ而シテ

此每年千四百萬ノ積金ハ大藏省ノ出納トハ分リ別モノナレハ

假令政府如何ナル費用アルトモ一ヲ他供スルヲ許サシ

ハシ

新ニ會社 創立ニ今般英國ニ於テ所募ノ公債金

貨ヲ此會社ノ元金ニ當テ其利之ハ會社ヨリ之ヲ

拵ハシメ政府ノ會計トハ全ク界ヲ以テ公

私ノ融通ヲ便ニシ金ヲ實用ヒシムルノ方法概見

竊ニ憂懼スル所ハ今日英國ニテ新ニ募ル所ノ公債金貨

ハ目下政府ノ會計出入相償ハサルヨリ一時ノ急ヲ救ハ

シ為ニ或ハ歳費ノ不足ニ供シ遂ニ之ヲ使用スルノ宜

ヲ失、ニ下ナリ果シテ然ル時ハ他日愈々言ノ壅塞

キ上下共ニ困迫スルニ至ルノ甚ク然レテ其ノ

生利ニ活用シラハテ以テサレ可キ

実地ニ活用スルノ方法ハ頂ラク一會社ヲ創立シテ其財

本トナシ嘗テ米國ニ於テ製造ノ紙幣ヲ以テ現額相当ノ

高ニ算シテ施行スルニアリ

此會社ヲ創立スルニハ米國新債ニテ五十萬圓ヲ一封

度四圓半ノ相当ニ算シ一千八十万圓トナルニテ政府ノ

出額トナスヘシ(三井小倉島田池田鹿島等ノ如キ豪商

十家ヨリ二十家ノ拔擢シテ此會社ノ株主ニ加入セシメ

其元金トシテ會社ニ入ルヘキ金額ハ合計一千四百四十

万圓ト定メ初年コノ會社ヲ開店スル前ニ一千六十万

圓ヲ入金セシムヘシ残り一千〇八十万圓ハ之ヲ廿五年

ニ割リ年賦ニテ入金セシムルノ法ト定ム○於此會社庫

中ノ金額ハ公私ヲ合セラ開店ノ初ヨリ一千四百四十万

圓ヲ實備ス依テ其製造ノ紙幣一千四百四十萬圓ヲ發

行シテ金相交ヘテ流通シ會社ノ事業ヲ發達スルニ紙

交ハ一千

ハ常ニモハ社庫中ニテ一勿トス

会社周年ノ損益均ニ得ル所ノ利年々一割二分ト視  
 而シテ政府ノ入金一千八十万圓ニハ会社ヨリ必スハ分  
 ノ利息ヲ政府ニ拂フヘシ○政府ハ此ハ分ノ利ヲ以テ新  
 債ノ利息ニ宛ツヘシ而シテ新債ノ元金ヲ英國ニ返ハ為  
 ニ計、右ノ一千八十万圓ヲ取戻シ廿五年ノ没ニハ政府  
 ノ入金ハ一錢モ会社ニ止ラザルベシ○会社ノ株主等ハ  
 又年々政府ノ入金減少スルニ逆ラ各自ノ年賦ヲ会社ニ

入金シ廿五年ノ以ハ会社ノ元金一千四百四十万ハ皆株  
 主ノ私金ニシテ一圓モ政府ヨリ預ト所ナシ○政府ノ入  
 金減少スルニ従テ政府ニ收ムル所ノ利息高ニ減少スル  
 事当然ナリ

前條ニ掲ル所ノ紙幣消却ノ備金ハ此会社ニ拵テ之ヲ預  
 リ一年六分ノ利ヲ附ケ年末ニ此利ヲ政府ニ収メ翌年ノ  
 初昨年ノ元利合償セル高ヲ改メ六分ノ利ノ以テ預ル  
 べシ

此会社ハ政府ノ入金ニ付テハ五分ノ得アリ又チノ預  
金ニ付テハ六分ノ得アリ是ノ得金ハ会社ノ費用ニ充テ  
株主ノ得分トナルヨリ会社分散ノ窮ニ至ルノ患ナシ  
此会社ノ業ヲ營ム為ニハ其制ヲ嚴ニシ決シテ危険ノ利  
ヲ踏ムヲ許サス持ニ政府ヨリ理財ノ方法ニ通曉セル人  
物一員ヲ撰ニテ會社ノ總裁タラシム一切ノ事務ヲ総理  
シ外ニ四五員ノ信任スヘキ者ヲ舉テ會計ヲ核算シ出納  
ヲ監督セシム其根局ハ之ノ東京ニ置キ二府五港ハ勿論

其業ノ盛大ナルニ應シテ各地方ニ枝局ヲ置キ各々局長  
ヲ撰ニテ之ヲ管理セシメ全社ノ規則ヲ遵奉シ時々各地ノ  
商情ノ模様ヲ根局ニ報告シ根局ヨリ之ヲ政府ニ報告ス  
政府ノ官員ハ根枝ノ各局ヲ巡察シ簿書ヲ検査シ其所為  
ヲ叡考スルヲ要トス其法已ニ備ハリ其制全ク立ツ時ハ  
全國ノ財本大ニ此会社ヲ經テ周流シ公益ノ大業ヲ起ス  
ニ利アルヲ必然ナリ  
右ノ法ニ據リテ実行セハ廿三ノイ  
テハ更

政府ノ入金ヲ仰カサルノ一大会社  
此ニ政府

公板タルハ云々モナク商業工業ノ益ニ無限ノ補益ヲ

ルヲ論ヲ疾クスレラ明ナリ又英國ノ新債モ起利興益ノ

財本ニ充ルヲ得其利息ヲ拂フモ其元金ヲ返スモ皆一ニ

政府ノ費額ヲ勞セスレラ人民ノ融通ニ於テ莫大ナリト

云ノヘシ

又紙幣消却ノ元金ハ十年ノ後ニ於テ尽ク全國ノ紙幣ヲ

償却スルヲ得ヘシ此時ニ至リテハ人民ニナ政府ニテ償

却ノ実アルヲ知 虐行ノ熾ナキヲ悟リ却テ紙幣ノ便宜

ヲ重宝ナリトセハ是即テ紙幣ノ實理実効ヲ得ルノ時ナ

レハ一半ヲ消却シ一半ヲ残シテ民心 流通ヒシメ元金

ハ之ヲ政府ニ備置カハ即テ実價ノ紙幣ナリト云スヘシ

如此十年ノ実践ヲ以テ紙幣ノ大患ヲ除キ廿五年ノ実行

ヲ以テ財用運轉ノ大利ヲ起シ以テ物産ヲ増殖シ以テ製

造ヲ興シ財力相扶ケテ貸財壅塞ノ弊ヲ除クヲ計ヘシ

所クハ僕ノ陋見ニ注目シ右ニ款ニ其論ヲ熟思シ輕弁

ヲ遊々永世ノ利ヲ起スヲ專一トシテ  
見テ畧述スル如ク  
故ニ概

[Faint vertical text in a red-bordered column on the left page]

[Faint vertical text in a red-bordered column on the right page]





大正官